

古文書を読む会学習記録

作成日 平成29年10月26日

日時	平成29年 10月26日	時間	10:00~12:00
場所	金沢区役所リハーサル室	出席人数	13名
講師	真田 雅行氏	作成者	山根 美智子
テーマ	第二学習 艱難實録③		
概要	<p><前回より> 日光山宿坊南照院へ入り、君侯(勝静)万之進(嫡男)は謹慎、幼少の嫡男は安中侯(分家)にお預けと一旦は決まったが反故にされる 一同嘆息</p> <p>一、日光へ謹慎する前に恭順の意を示すべく備前藩留守居衆に頼み上京の際に同行させて貰う様にした</p> <p>一、私(著者)は日光へ一旦は御供したが直ぐに江戸へ引き返した(3/11 出立) 目的は江戸の形勢を日光へ報告する事、江戸の右京様や家中の妻子の身の振り方の世話。情報収集には私他5名、右京様付には7名で小梅常泉寺にて謹慎</p> <p>一、日光へは有金全て三千両程、御供人数 58・9 人相応の数の武器所持させ行く予定後から来る予定の低身分の者は来ず、脱走する者も居り、剩え金子も持ち逃げされる始末</p> <p>一、尾藩の水野様からは藩内の者を朝廷に遣わすのが得策との教示あり 君侯は朝敵の名目を受けた者では不敬にあたると同意せず 大久保一翁様が尾藩へ行くので老公に周旋を頼むことにした</p> <p>一、日光宮(輪王寺宮門跡)は三島の辺まで慶喜の助命嘆願の為出向いたが戻った 君侯の謝罪嘆願は提出されたか否か不明で、出されたとしてもその次第は聞き兼ねるという事だった</p> <p>一、肥後藩沢村にも嘆願を頼もうとしたが面会叶わず断念 大久保の話では西郷は「慶喜の梟首が無くば江戸は戦火にまみえる」との事で一方徳川麾下衆は戦の構えで一触即発の状況であった</p> <p>一、松山藩からの音信は全く無く、此方から探索した所、藩主に伺いもせず開城(1/17) 武器も全て渡し、鳥羽・伏見の戦いから戻った兵達(備前にて謹慎)も受入れなかったその後4月に入ってやっと報告があったが開城他の事は事実で、その上例年通り金・米を受け取っており、しかも江戸での窮乏に應えることなく一粒の米さえ送らないという事だった</p> <p>一、三田龍之介が日光から江戸に来たその目的は 会藩重役が君侯の元に来て議論した(私も同席)内容を伝える為と在江戸の会藩士への伝言であった 謝罪嘆願は八方手を尽くしても成らず、その上頼みの在地からの金・米はもたらされず此の上は会桑とも合議の上、一朝事あれば・・・という状況に追い込まれていた</p>		
次回予定	平成29年 11月 9日 10:00~12:00 於: 金沢区役所リハーサル室 第一学習 宿村 森家文書④		